

# 福井県の特徴ある高校教育

## 1 サイエンス教育

### (1) スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施

- ・学校設定科目、課題研究等の実施による理数教育課程の研究実践
- ・大学、研究機関等との連携・接続による先端科学技術研修
- ・理系英語力の強化、海外研修等による理系グローバル人材の育成
- ・科学オリンピック等各種コンクールへの積極的参加

[指定校]

高志高校 (平成15年度～)

藤島高校 (平成16年度～、平成22年度コアSSH)

武生高校 (平成20年度～)

若狭高校 (平成23年度～)

### (2) サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP)

大学・科学館等との連携により、理数系の体験的・問題解決的な学習を実施

[指定校]

金津高校、敦賀高校、若狭高校、敦賀気比高校 (平成22年度)

丹生高校、美方高校、敦賀気比高校 (平成23年度)

丹生高校、敦賀気比高校 (平成24年度)

### (3) スーパーサイエンスクラブ (SSC) 設置事業

授業では取り組めない継続的な科学実験や実習を行うスーパーサイエンスクラブを設置し、サイエンスに興味・関心を持つ子どもたちの可能性を引き出し、理数好きのトップを伸ばす。

- ・科学部員対象のサイエンス研修会の開催
- ・ふくいサイエンスフェスタ (最先端科学者による講演会等)
- ・課題研究発表会
- ・科学部顧問派遣研修 (筑波などの研究機関、大学等2泊3日)

[指定校]

金津高校、敦賀高校、美方高校 (平成23年度)

羽水高校、大野高校、福井農林高校 (平成24年度)

#### (4) 目指せ 全国科学オリンピック事業

生徒が実生活に関連した理科・数学の問題を競い合って解くことによって、理数分野への興味・関心を喚起し理数好きの裾野を広げるとともに、論理的思考力等を育成し、トップ層を伸ばす。

- ・ふくい理数グランプリの開催（数学・物理・化学・生物・地学）
- ・「全国科学コンテスト」「科学の甲子園全国大会」等の参加支援
- ・先進県、先進校視察

#### (5) ふくいサイエンス顕彰事業

南部陽一郎博士のノーベル物理学賞受賞を記念した表彰制度を創設し、理科・数学の研究・コンテストにおいて優秀な成績・成果を収めた中・高校生等を表彰し、サイエンスに対する興味・関心を一層高め、将来科学者や研究者を目指す子どもたちを増やす。

- ・中学生部門・高校生部門（最優秀賞・優秀賞）の表彰
- ・最先端研究施設への研修（夏季休業中 2泊3日、つくば市内）

## 2 英語教育

### (1) 生徒の英語コミュニケーション能力の育成

- ① A L T (Assistant Language Teacher 外国語指導助手) の積極的活用  
(生徒一人あたりの A L T 数は日本一)
  - ・ 授業以外にも日常的に英語に触れる「イングリッシュ・シャワー」(全校)
  - ・ 英会話、ディスカッション等を行う「土曜スクール」(8校、月1回)
  - ・ 夏休みに生徒を英語漬けにする「高校生英語キャンプ」(2泊3日)
  
- ② 「ディベート研修会」や「福井県高校生英語ディベート大会」を開催して、英語ディベートのスキルアップ
  
- ③ 高校2年生100名をニュージャージー州等に派遣する「高校生海外語学研修」  
(3月、15日間)
  
- ④ 職業系高校にて「ビジネスコミュニケーション講座」を開催(週1回)し、生涯にわたって英語を学び続ける資質を醸成
  
- ⑤ オリジナル教材を作成(10テーマ、映像DVD、音声CD)し、「ふるさと福井」の情報を英語で発信できる生徒を育成

### (2) 教員の指導力向上、授業改善

- ① 英語指導改善拠点校に高校4校を指定
  - ・ 学習到達目標(Can-doリスト形式)に基づいた授業実践
  - ・ 外部検定試験により英語力を検証
  - ・ 外部有識者の指導による授業実践の積み上げ、授業公開や授業研究会を実施(各学期、各校1回)
  
- ② 拠点校および協力校の教員を中心に、アメリカのラトガース大学に派遣し、授業改善の中核教員を養成(4週間)
  
- ③ 「英語科教員集中セミナー」を開催(夏休み、連続3日間)し、新学習指導要領の趣旨に沿った授業実践を推進
  
- ④ 英語教員・A L Tを対象に「ジャッジ講習会」を開催し、英語ディベートの指導方法を改善